



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記

事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区

土佐堀1-4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内

Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055

E-mail jpca@a-youme.jp

HP <http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/index.html>

ニュースレター No.44 (2024.6)

特集1：近畿の話題（今回は、和歌山からです）

高度救命救急センターでの救急科研修を通じて得た学び

野田 幸治（和歌山県立医科大学附属病院紀北分院/伊都郡かつらぎ町）

私は和歌山県総合診療専門研修プログラム専攻医として、和歌山県立医大附属病院（高度救命救急センター）で救急科研修を行いました。当病院は和歌山市紀三井寺に位置し、3次救急の指定を受けた施設です。

和歌山県は南北に長く、地理的な問題から高度な医療機関へのアクセスが困難な地域が多いという課題を抱えています。2003年には、全国の国公立大学に先駆けてドクターヘリの運行が始まり、和歌山県全域からの重症患者が搬送されるようになりました。年間の救急車搬送は5000件を超え、ドクターヘリ搬送も500件以上というハイボリュームセンターとして機能しています。

和歌山県内は各診療科が集約された施設は少ないという実情があるように思います。そのため多疾患併存の患者が数多く当施設に転送され、やがて診療が落ち着けば、退院やリハビリ・療養のため他施設に転院となります。入院となる患者さんは、単一の単純な問題を抱えているケースはむしろ少なく、複数の疾患が併存している、さらには複雑な社会的背景を持っている方も数多くおられたように思います。

ある日の救急科での入院症例を見ると、「うつ病で自殺を図った転落外傷」「維持透析が必要な急性腹症」「頸髄損傷を伴う外傷」など上げるとキリがありませんが、疾患の複雑性が高い患者さんが多いように感じられました。またこれまで経験がなく、本の中でしかみたことがなかった「破傷風」や「悪性症候群」などの重症疾患の患者さんもあり、それらの診療にもわずかながら関わることができて非常に貴重な経験になりました。

当施設の救急科ではERでの初療から、ICUやHCUそして一般病棟での入院治療まで救急科で行うため、一人の患者さんの治療を初療から退院までみることができるところも特徴であり、一度入院となれば研修医や、専門医、コメディカル、ソーシャルワーカーとも連携をとり、救急科医師はホスピタリストとしての役割を実践し、診療がすすんでいました。総合診療科専門研修プログラムの救急科研修としてチーム医療の重要性を再確認するとともに、非常に学びの多い期間となりました。

以上、和歌山医大の高度救命センターでの研修についてお伝えしました。

最後に、和歌山医大がある和歌山市ですが、来年度は近畿地方会が開催されます。

会場の和歌山城ホールはJR和歌山駅と南海和歌山市駅の中間にあたる場所にあります。私も少し運営に関わらせていただき、学び楽しめる会にしようと鋭意作成中ですので、ぜひともご参加いただけますようお願いいたします。



特集 2 : 第 37 回 近畿地方会のお知らせ

第 37 回近畿地方会運営委員長／和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 梶本 賀義

2024 年 11 月 17 日（日）に和歌山城ホールで開催される日本プライマリ・ケア連合学会第 37 回近畿地方会の運営委員長を務めている梶本賀義です。大会長である廣西昌也先生のもと、「～人をつなぐ，心をつむぐ～ インテグラルな地域医療を目指して」をテーマに準備を進めております。

ホームページ (<https://pckinki37.org/index.html>) も公開中ですので、併せてご覧ください。

大会概要ですが、コロナ禍でお馴染みとなった**現地参加と Web 視聴のハイブリッド形式で開催**を予定しております。特別講演には、飛騨千光寺の長老であり、日本スピリチュアルケア学会理事である**大下大圓先生**をお招きし、「**プライマリ・ケアにおけるスピリチュアルケア**」をテーマにご講演いただきます。

本地方会では「～を考える」を合い言葉に、多くのセッションを予定しております。「病診連携」「在宅緩和ケア」「臨床コーチング」「オーラルフレイル」「ホスピタリストの役割」「医薬連携」「地域でのリハビリ」「ACP の実践」「プライマリ・ケア医のキャリア」など、参加者の皆さまが楽しく学べる内容を企画しておりますので、どうぞご期待ください。各プログラム委員からの**紹介動画をホームページに公開**しておりますので、ぜひご覧ください。

特別企画としては、各種セッションに参加して「考える」ことに疲れた方に「ゆるめる瞑想会」をご用意しております。ご興味のある方は、セッションの合間に体験してください。また「POCUS ワークショップ」の開催も検討しております。詳細情報が決まり次第、ホームページ上に更新していきますので、参加を希望の方はしばらくお待ちください。

今回、**一般演題は、Web 上でのバーチャル討議形式**を採用しました。発表者には演題を事前に動画で登録していただき、参加者はいつでも動画を閲覧できるとともに、気になった演題に対してネット上でコメントや質問ができるようにします。会場の都合もあって臨場感や緊張感を伴うリアルタイムな発表の場を用意できませんでしたが、いつでもどこでも、忙しい人もそうでない人もバーチャルでつながることができると思えば、本地方会のテーマに合っていると思います。**一般演題の登録期間は 2024 年 6 月 17 日（月）から 8 月 31 日（土）**です。研究成果や日々の実践を発表する絶好の機会ですので、医師だけでなく、医学生、看護師、薬剤師、理学療法士など多職種の皆さまのご登録を心よりお待ちしております。

早期参加登録は 8 月 1 日（木）から 10 月 14 日（月）です。通常参加登録は 10 月 15 日（火）から 11 月 17 日（日）を予定しております。どうぞお早めにご予定を調整いただき、ぜひ早期参加登録をお願いします。皆さまのご参加とご協力を心よりお願い申し上げます。

報告：JPCA 近畿ブロック Start-UP 企画(オリエンテーション)2024 を開催しました

水谷 肇 (大阪医科薬科大学病院 総合診療科)

5月18日に大阪医科薬科大学病院にて Start-UP 企画を開催いたしました。今回は久しぶりの現地のみでの開催ということで、「対面だからこそ可能な、今後につながる、ゆるやかなコミュニティーを作ろう!」をスローガンに準備を行いました。当日は専攻医1年目である17人を含め、43人もの先生方いただき、会場は大変な盛り上がりでした。

15時より雨森正記支部長に zoom で開会のご挨拶をいただき、続いて草場鉄周理事長のビデオメッセージを拝聴しました。準備委員会のメンバーの自己紹介を挟んで、年度末の恒例行事であります P-FES(第16回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会)にて最優秀賞を受賞された青井輝希先生(近江八幡市立総合医療センター)より、「1年目終了の立場&診療所研修終了後の立場から」と題し、ご自身のキャリアについてご講演を賜りました。青井先生はもともと小児科の先生ですが、その小児科のキャリアを通して家庭医療を学びたいと感じられたそうで、総合診療プログラムに入られました。小児科での学びと総合診療科での学びの違いは非常に興味深く、他科では「センス」で片づけられている「いい医者」になるための学びが総合診療プログラムには数多くあることを実感されたそうです。青井先生のお話しに、今年専攻医をスタートされた先生方は心強い気持ちになられたのではないのでしょうか。続いて、現地集合のメリットを活かし、ワールドカフェ形式にて研修を開始して感じた不安をシェアしたり、どのように研修を進めていくかのサバイバルスキルについて語り合いました。8班に分かれて各班少人数での意見交換となりましたが、どの島も同じ志を持つ先生同士、すぐに打ち解けて大変盛り上がりおりました。話題の中心はポートフォリオをいかに作成するのかが多かったようですが、各班についていただいた指導医クラスや年次の少し高い先輩方からの直接のアドバイスはきっと参加者の皆様の今後に活かせる内容であったのではないかと確信しております。総括ではルーキーの先生方から今日の会の感想や今後の研修に対する気持ちを伺いましたが、同じように悩んでいる同期がいることに安心した、不安が軽減した、など前向きな感想が多く聞かれました。

このように今年も近畿ブロック 2024 年度の取り組みが始まっています。同じ時代を生きる同志として、ともに歩んでいける未来をこの場から。今後ともご支援いただけますと幸いに存じます。



活動報告

川島 篤志 (市立福知山市民病院 総合内科)

2023 年秋に学生企画「総合診療のキャリア 本音トーク」を開催させて頂きました。

その後の継続企画として、今後も医学生や初期研修医にも緩い企画で、お話しできる機会をつくることできれば、と検討していました。

今回は「総合診療選択に対する期待と不安 とにかくしゃべりましょう」として、試験的に初期研修医1年目を対象として開催しました。初期研修医1年目(=春から新2年目)を対象としたのは、2025 年度から専攻医としてプログラム選択のうえで参考になることがあれば…としての開催。今後もどの時期がいいのか、また皆さまからのアドバイスを頂ければ嬉しく思います。

さて冬期セミナー・P-FES が終わった3月に開催で、どうなるかと思いましたが、初期研修医が7名申し込んでくれました。申し込んでくれた…と強がって記載しましたが、実際は2名体調不良で欠席(まだまだコロナ禍のオンサイトの会ではお互いの気遣いが必要になりますよね)で、しかも3施設から5名の参加、つまりお兄さん・お姉さんと参加してくれた、というのが現状でした(研修医を連れてきて下さった先輩・指導医の先生方には感謝します)。薬剤師さんの参加もあって、総勢14名で楽しくお話ししました!

今回も大阪医科薬科大学さんで会場をお借りして、集まったメンバーで緩くワールド Café 方式でワイワイガヤガヤ。レクチャーがあったわけでも何かまとまったプロダクトを創ったわけでもないですが、参加者がもつ不安や心配が少しでも解きほぐされ、この領域に飛び込んできやすいことにつながれば嬉しいですよね!

これからも医学生・初期研修医に我々の診療領域に興味をもってもらえるキッカゲづくりを創っていこうと画策しています。ニーズがあるのかどうかも手探りのままですが、継続的にこういった集まりを開催して、円滑な(持続可能な?)運営になるようにしたいと思います。これからも皆さまのご協力を宜しくお願い致します!

※ この会は JPCA 近畿の補助金を受けて開催させて頂きました。ありがとうございます。



活動報告

“さらばその名を代々に残さん” -寒川第一小学校の閉校と新卒看護師への賛美歌-

白浜はまゆう病院・国保直営川添診療所（西牟婁郡/白浜町） 竹井 陽

私は現在 和歌山県南部の通称紀南地方にある公益財団法人 白浜医療福祉財団の中で 国保直営川添診療所と200 床の急性期・ケアミックス病院である白浜はまゆう病院で勤めています。ここに自分がいるのは、実は今回の主題である寒川第一小学校のおかげです。そこは私が自治医科大学卒業後 医師 8-9 年目で勤務した寒川診療所時代に（2013 年-2014 年当時）学校医を勤めた小学校です。寒川診療所は自治医大の多くの先輩方が勤務した歴史ある診療所です（地域医療振興協会編集“地域医療は今（2011 年）”でも 寒川診療所ならびにその学校医活動は大きく取り上げられています）。

旧寒川村は 和歌山の中部に位置する日高川という和歌山最大のダムを有する河川の最上流に位置します。そこは NHK の朝ドラ“じゅんちゃんの応援歌”の舞台にもなった美しい桃源郷のような村です。唐沢寿明と山口智子が初めて出会い、愛を育んだ場所です。自分はここに赴任して、そして寒川小学校の22名の小学生と出会ったことが運命の出会いだったと思っています。

思い出深いことは 数えきれませんが、春にはチューリップと桜が美しく咲き乱れる木造の校舎によく自分は健診や住民講演で学校医として伺いました。



図1) 強く 正しく ほがらかに” 寒川第一小学校 校訓の碑

そんなある日 台風の後、木や落石が散在しているため、超低速で診療所にいたる細い道を車で走っていると目の前に小学生が出てくるので危ないなあとと思っていますと、なんと彼（仮名 剛君）は自分の車の前の木の枝をとろうとしてくれたのでした。将来は警察官になりたいですといった小学生ながら堂々とした体格の凛々しい彼の姿に、本当に彼のようなひとが警察になってほしいなあと目を細め思ったことを忘れません。

また ある日 小学4年生のいつも気管支喘息の治療に診療所にお母さんと訪れる彼女（仮名 美江ちゃん）が私はお母さんみたいに看護師になりたいんですと澄み切った瞳で堂々と告白したことを自分は今も忘れません。自分は診療所を去るときに 彼女に “山崎章郎著 病院で死ぬということ”という小説をプレゼントしたのですが、少し難しすぎたかなと今は後悔しています。

それから毎年、その職場を離れても、あのときの気持ちを忘れないために、心に迷いや悩みが生じたときに、その集落を自分は訪れて春爛漫と咲く診療所の前のソメイヨシノをみて自分の心を見つめ直し、癒やされてきました。そして今は寒川診療所の看護師になった美江さんのお母さんに私の散歩道である診療所から明治創業の三尾屋商店に向かう溪流沿いの細道でよく出会い、世間話の中で美江さんが看護学校の実習で苦しんでいることなどを聞かされ、彼女に励ましの手紙を書いたりしました。そんな中の夏のある日、その溪流で友人と川遊びをしていた美江さんに会ったとき、今は自分が仰ぎ見ないといけないうくらい背の高くなったスタイリッシュな美江さんに“ありがとう”と言ってもらえたことが本当にうれしかったです。

そしてこの春 村を訪れた際に、そんな美江さんが国家試験に合格し、看護師としての第一歩を踏み出したという朗報とともに、自分にとって思い出の、また人生を変えてくれた小学校 寒川第一小学校の閉校の知らせを三尾屋で聞きました。

思い出の小学校の閉校は本当に悲しいニュースです。しかし、それと同時に剛君、美江さんのような地域出身の社会人、看護師が新世界に力強く羽ばたいていく躍動に自分は胸を熱くします。寒川第一小学校の 校訓 “強く 正しく ほがらかに”をこの胸に刻んで、永遠に自分の中でも、また剛君 美江さんをはじめとした卒業生の中にも、寒川第一小学校は校庭に残る桜の花やその前を流れる溪流のように存続していきます。

藤原定家が壇ノ浦で亡くなった昔の恋人を思い続ける建礼門院右京の大夫に贈り、先の大戦後の未亡人たちの心を揺さぶり、高校生の三島由紀夫が熱狂した言葉 “さらばそのなをよよにのこさん” を私は寒川第一小学校と剛くん、美江さんを始めとした私の人生観を変え、地域医療とプライマリケアの世界に導いてくれた 22 名の卒業生たちに捧げたいと思います。

ありがとう 寒川第一小学校 そして ありがとう 44 の瞳たち。そして剛君、美江さんのような地域出身の新卒社会人、新卒看護師に限りない賛美とともに、大きな 大きなエールをこの南紀白浜の地から送りたいと思います

社会・薬局薬学 (Social & Community Pharmacy) 研究室 初合宿 in 白浜

和歌山県立医科大学 薬学部 社会・薬局薬学研究室

西廻一真 (4 回生)、鈴木渉太 (助教)



私は、和医大薬学部1期生で、3回生の後期から研究室に配属となり、地域医療の研究活動に取り組んでいます。今年3月、白浜はまゆう病院 竹井陽先生からお誘いいただき、研究室メンバーで白浜を訪問したので紹介します。

初日(17日)、まずは「とれとれ市場」で手に入れた海鮮弁当を食べながらランチョンセミナーを行い、学生が研究計画を発表し、現場の先生方からアドバイスを受けてブラッシュアップしました。続いて、特別セミナーとして、西川佳孝先生(京都大学 SPH)から、統計ソフト「R」の使い方を学び、自分たちの手で和歌山の地図を書けるようになりました。実践的な内容ですぐに研究に活かそうです。生憎の豪雨でしたが、夕食は竹井先生おすすめ「ときわ寿司」で豪勢な海の幸を存分に堪能しました。2日目(18日)は、町内の「アトム調剤薬局」を訪問しました。銀行を改装した店舗で、随所に名残があったのが印象的でした。途中で昼食をとり、いよいよ「白浜はまゆう病院」を訪問しました。竹井先生から南紀のレクチャーを受け、和歌山に対する熱い思いが伝わってきました。丘の上に立つ病院はとても綺麗で、院内の関連部署も見学させていただきました。医薬品アクセスに関心があるため、薬剤部での「山奥の病院まで医薬品、ワクチンなどを車で配送している」という説明が印象的でした。合宿で得た最大の収穫は、白浜に住む人々の暖かさです。私も暖かい心を持ち、地域で信頼される薬剤師を目指したいと思います。

ご挨拶：理事退任



雨森 正記 (医療法人滋賀家庭医療学センター)

近畿ブロック会員皆様、20年間にわたり学会理事を務めさせていただきましたが、今回で退任させていただくことにいたしました。長年ご協力賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

学会では主に生涯教育を担当させていただき、生涯教育セミナーの責任者を23回経験させていただきました。セミナーでは役得で、業界の有名な先生方と懇意にさせていただいて「ミーハー」な私としては大変嬉しく楽しい機会をいただいております。

2009年の合同の学会では家庭医療学会の大会長をさせていただいておりましたが、新型インフルエンザ流行のため直前に延期となり、しかも3学会合併するという決議がされるということで大変な思いもいたしました。

2019年には京都で2度目のWONCAAPRと第10回学術大会を開催し、学術大会長も経験させていただきました。例年より長い5日間の会期中は、「朝死んでるんじゃないか」という思いでしたが、皆様のおかげで無事に開催できました。

その前年の2018年から6年間近畿ブロック長をさせていただいておりました。不十分な働きであったかもしれませんが、コロナ禍での運営、地方会の今後について協議させていただき少しでも近畿ブロックを盛り上げるように心がけてまいりました。この間、近畿ブロックでも若い先生方が中心となって新しい企画を次々行っていました。これからは次期のブロック長である鈴木富雄先生のもとで次の世代の方が頑張っていただけるのは間違いないと思います。

最後になりましたが、このような機会をいただきました京都の水野融先生はじめ近畿ブロックの先輩方、会員の皆様、長年おつきあいいただきましたあゆみコーポレーションの皆様にご心から感謝いたします。ありがとうございました。

ご挨拶：理事就任



鈴木 富雄 (大阪医科薬科大学総合診療医学教室)

みなさんこんにちは。大阪医科薬科大学の鈴木富雄です。

今回、日本プライマリ・ケア連合学会の理事に選任いただき、誠にありがとうございました。これで、本学会の理事としては2016年から5期目に入ります。前期ではJPCAの予防医療・健康増進・産業保健委員会の委員長、感染症委員会の副委員長、大学ネットワーク委員会の副委員長、和文誌編集委員会の副委員長などの業務を担い、近畿支部では副支部長を務めさせていただきました。これまで多くの皆様方のご支援をいただき、理事の仕事をさせていただきましたが、今回も選任していただき、大変感謝しております。皆様方のご期待に添えるよう、今期も誠心誠意務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍もひとまず一段落し（また何ができるかわかりませんが）、昨年ぐらいいから再び皆様方とお会いできる機会が増えてまいりました。今月5月18日には大阪医科薬科大学で専攻医オリエンテーション企画である、JPCA近畿ブロックスタートアップ企画を致しましたが、実に4年ぶりの現地開催となり、当地区の多くの専攻医と指導医が一堂に会して、専攻医をスタートさせるにあたっての不安と期待を話し合い、その後の懇親会も大いに盛り上がりしました。今期は是非、そのような若手医師や研修医および医学生を巻き込んだ現地での対面の企画を考えていきたいと思っております。また、2年後の2026年5月には京都国際会館にて、JPCA第17回学術大会が予定されており、僭越ながら私が大会長を務めさせていただきます。皆様方のご協力をいただき、近畿ブロック全体で盛り上げていけるように尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶：理事就任

川島 篤志 (市立福知山市民病院 総合内科)

京都北部の市立福知山市民病院 総合内科の川島 篤志です。選挙制度が変更になりましたが、引き続き理事に選出して頂きました。2期目も十分な貢献ができなかったかもしれません。「近畿での総合診療専攻医を増やす」ための「医学生・初期研修医に継続的に情報提供を行う体制づくり」でのHP作成は頓挫してまいりましたが、JPCA自身からの発信も引き出せたようにも思っています。ちなみに「医学生・若手医師支援活動」というページはご存知ですか？

https://www.primarycare-japan.com/assoc/young_support/ できれば多くの

皆さまの協力で、医学生・初期研修医に情報を拡散してもらえると嬉しいです。オンサイトの企画も増えて、仲間と交流する大切さを、皆さまも再認識しているなか、医学生低学年±高学年対象の企画、初期研修医への企画も無理のない範囲で定期開催につなげていけるようにします！是非ご協力をお願い致します。歯科・薬剤師や在宅医療関係やベテランの先生方にも興味を持っていただける企画まで頭も身体も回っていませんが、ぜひ皆さまのお力をお借りしたいです！2025年秋の地方会は2023年に続いてのオンライン開催予定ですが、そこでも関わりをもちたいと思っています！

JPCAの委員会活動では、これまで委員長（セクシュアルヘルス委員会）・副委員長（病院総合医・高齢者診療委員会）で関わっていた委員会で継続プロジェクトに関わるつもりですが、再編で別委員会にある予定です。一緒に活動しようと思う方がおられたら、是非声をかけて下さいね！宜しくお願い致します！



ご挨拶：理事就任

石丸 裕康 (関西医科大学総合診療医学講座)

近畿ブロックより理事に選出いただきました石丸裕康です。このたび四期目を迎えることになりました。これまで学会では病院総合医委員会委員や和文誌編集委員会で主に活動してまいりましたが、今期もこれらの活動、そして近畿支部の活動に引き続き尽力したいと考えております。学会員のみなさまのご協力・ご支援をお願い申し上げます。



ここ数年、医療政策においては、医療提供体制について、従来の病院の機能分化・役割分担に加え、かかりつけ医機能報告制度などを通じ、プライマリ・ケアの質的・量的確保に関する議論が進められるようになっていきます。

JPCA はその議論において重要な役割を果たしており、社会的責任を意識した活動がますます求められていると感じています。

プライマリ・ケア領域でリーダーシップを発揮する人材として総合診療医/家庭医療専門医を育成することはもちろんのこと、看護師・薬剤師をはじめとしたメディカルスタッフ、他のキャリアからプライマリ・ケアに参画する医師、行政・NPO など、プライマリ・ケアにかかわる多様な人材を結集し、地域の実情に応じた質の高いプライマリ・ケアの提供体制を構築することが本学会の使命であると感じております。

近畿ブロックの活動は、会員のみなさまの積極的な参画のもと、学会全体をリードしてきたものと考えておりますが、ますますその力が求められていると実感しております。ぜひお力添えをいただき、よりよいプライマリ・ケアの実現を目指したいと考えております。よろしくお願いいたします。

ご挨拶：理事就任

松島 和樹 (神戸総合診療・家庭医療専門医プログラム 川崎病院 総合診療科)



こんにちは。このたび新たに理事に選出いただきました松島と申します。この場をお借りして簡単に自己紹介をさせていただきたいと思います。

私は今、卒後14年目で家庭医療専門医・在宅専門医・総合内科専門医として兵庫県神戸市にある川崎病院という270床規模の病院を軸に勤務しております。飯塚・穎田家庭医療プログラムでの後期研修の際に冬期セミナーの実行委員長を務めました。その後5年間を京都の金井病院（関西家庭医療学センター）で指導医として過ごし、その間に北海道家庭医療学センターのフェローシップを修了しました。また専門医部会の若手医師部門でも活動をしておりました。2021年度より今の地に移り、川崎病院の在宅専門医プログラムと神戸総合診療・家庭医療専門医プログラムを立ち上げ、運営しています。

私は何か飛び抜けた能力があるわけではありませんが、バランスよく物事を俯瞰し、整理し、まとめることが得意だと思っています。学会の行うべき、診療補助・学術・教育といった活動をしっかりと支えていきたいと思っています。また理事の中では若手の方ですので、専攻医・初期研修医・学生のニーズを拾い上げ、適切にアプローチができるよう頑張りたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

ご挨拶：理事就任

竹内 あずさ（ベガファーマ株式会社くすみ薬局河内長野店）

この度、全国選出理事に選出していただきました竹内あずさです。

大阪南部に位置する河内長野市の保険薬局に勤務する薬局薬剤師です。

学会では薬剤師認定制度委員の副委員長・薬剤師部会の副代表として、多職種によるチーム医療の担い手やプライマリ・ケアを実践できる薬剤師の育成に尽力しております。自身もプライマリ・ケア認定薬剤師です。また近畿ブロック支部では、ニュースレター委員として、企画・編集のお手伝いをし、他職種の声を皆様にお届けできるよう頑張っております。プライマリ・ケア連合学会の特色である多職種連携・多職種協働を、地域で、そして身近なところで実践するためには、他の職種をつなぐことのできる薬剤師の役割は大きいと考えております。今年度、学会で初めてのクォーター制による選挙で、全国区で3名の薬剤師が選出されました。これまで理事定数におけるクォーター制選挙に向けご尽力いただきました先生方、そして一薬剤師に1票を投じてくださった代議員の

先生方に感謝申し上げますとともに、皆様にクォーター制でよかったと感じていただけるよう、また元気で活気あふれる近畿ブロックの支部活動に貢献できるよう努めていく所存でございます。

今後とも引き続きご指導・ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

コメディカルの皆様、どうかご協力よろしくお願い致します。全国のブロック支部の中で一番大きくてきれいな多職種連携の花を、近畿で一緒に咲かせましょう！！



ご挨拶：監事就任

大島 民旗（公益財団法人淀川勤労者厚生協会附属西淀病院）



前期に引き続き、日本プライマリ・ケア連合学会の監事になりました。今回は定数2に対して4名の立候補があり、投票選挙になったことは恐らく初めてで、本学会への会員の注目度が高まったことの証左かもしれません。投票いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。また、2023年11月に行われた第36回近畿地方会においても、多くの演題発表、参加いただいたことに感謝いたします。

さて、監事という役割は理事会ならびに学会運営が正常に行われているかどうかを見守り必要であれば指摘を行うことですが、経験の長い理事の皆さんも数多くおいでの中で、むしろ自らの学びになっていると感じています。また、理事の皆さんの真摯なディスカッションは、私自身も大いに刺激になり、活力にもなっています。

一つ私が意識していることは、学術集団で医師という社会的には知識人に属する集団が、医療の本来の目的である患者さんの治療や癒しから乖離しないように意識することです。新専門医制度の総合診療専門医も、やはり地域のニーズにしっかり応えられる医師を養成していけるよう、その先にある家庭医療専門医の制度設計がしっかりしたものでかつ魅力的であることが必要だと感じています。

個人的にはこれまでの大阪家庭医療・総合診療センターのセンター長、プログラム責任者の任を後継に譲りましたので、監事という形でもうしばらく私を育てたこの学会に恩返しできれば本望です。

その他：

「赤ひげ大賞受賞からの振り返り」

明日香村国民健康保険診療所 管理者 武田以知郎

このたび第12回日本医師会赤ひげ大賞を受賞し、令和6年3月1日東京での授賞式において秋篠宮夫妻からお祝いのお言葉を頂きました。この賞は地域の実情に応じて創意工夫をこらし、住民への熱い思いをもって地道に医療活動続ける医師を顕彰し、地域医療の充実や次代を担う人材の育成に寄与することを願って創設されたものです。

地域医療ひと筋の医師人生において、“赤ひげ”の仲間入りできたことに感慨深いものを感じます。私が自治医大を卒業した40年程前、へき地医療というと医師のキャリアにおいて“出遅れる”とか、“遠回りになる”などと負のイメージを持たれていたものでした。私自身は2年間の初期研修後、一人で診療することに不安もありましたが、いい医療を届けてやるぞ！と鼻息荒い若造でした。その後、高くなった鼻はへし折られ、私を地域医療の道に導くきっかけになったエピソードを紹介してみます。

90歳を超えた高齢男性で、食べなくなり寝たきりになったと往診に呼ばれました。血液検査で低アルブミン所見があり、アルブミン製剤を取り寄せ毎日点滴に通いました。老衰で死期が近いと予測していた親族が遠くから集まっていたのですが、長引く経過に仕事に戻ってしまい、結局臨終には立ち会えませんでした。後にこれが老衰の経過だと気づく羽目になったのです。そう、基本的に病院では老衰で看取る経験はありませんでした。当時は何も治療をしないで診ることは、医療の敗北であり、病院ではあり得なかったのです。

2回目のへき地赴任。そこは人口600人ぐらいの小さな村で、住民や行政の全体が想像できるサイズの地域でした。住民との距離感も近く、住民と一緒に健康づくりの仕組みを創ったり、保健所などとも連携しながら、地域が動き、変わっていくのを実感できました。ここでの経験は、「地域を診る」礎になったのかもしれない。

今、私は明日香村国民健康保険診療所の医師として、多くの医学生や研修医を受け入れています。外来での日常診療や訪問診療なども経験してもらっていますが、やはり大学病院では患者さんの暮らしや生活を意識した診療、老衰過程や在宅医療を知る機会がないのが現状です。「病気を診る」ことは当然ですが、1回目のへき地赴任から学んだ「人を診る」こと、2回目のへき地で学んだ「地域を診る」こと。地域医療だからこそ見えてくる景色です。

令和5年にドキュメンタリー映画『明日香に生きる』が公開され、明日香村の美しい四季と、日常診療の風景、そして研修医たちの学びが描かれています。この映画からもきっと、「病を診る、人を診る、地域を診る」ことを感じ取ってもらえるのではと思います。“赤ひげ”の称号は、暮らしや生活を支える地域医療の面白さや大切さを伝える役目を託されたのだと思い、これからも次世代の育成に取り組んでいきます。

その他 : 「みんなの知恵袋」 (新企画)

テーマ 「疑義照会」

今号よりはじまる新コーナー「みんなの知恵袋」は、日常、ちょっと気になる、ちょっとモヤモヤする、これって他のみなさんはどうしているの?といったテーマを取り上げます。

みなさまにお気軽に投稿いただいた内容をもとに、ChatGPTにも編集作業をお手伝いしてもらいながら、ちょっとした気づきを得ようというイージーな企画です。論考というよりは、「雑談の中の気づき」を重視し、双方向性を高めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、みなさまから頂いた「疑義照会」に関するコメントですが、ズバリ、いずれもその意義、課題、解決策に焦点を当てた内容でした。

ChatGPTにかかると、ご覧のと通りのサマリーです。なるほど。



意義:

疑義照会は、医師の処方に対する薬剤師の疑問や不明点を確認するプロセスであり、患者の安全を守るために重要である。医療の質を向上させ、適切な薬剤使用を促進する役割を果たしている。

課題:

薬剤師と医師のコミュニケーション不足が指摘されており、特に電話や書面でのやり取りに時間がかかることが問題とされている。疑義照会が頻繁に行われると、医師の業務負担が増し、処方の自由度が制限される可能性がある。薬剤師の知識不足や経験の浅さが原因で、必要のない疑義照会が増えることがある。

解決策:

薬剤師の教育や研修を充実させ、専門知識を向上させることで、疑義照会の質を高めることが提案されている。ITを活用したシステムの導入により、疑義照会の効率化が図られるべきだという意見がある。薬剤師と医師の定期的な交流や共同研修を通じて、相互理解を深め、円滑なコミュニケーションを促進することが重要である。

患者の安全を最優先にしながら、医療従事者間の連携を強化することで、医療の質と効率を同時に高めることが期待されている。

では、実際のお声をご紹介します。

『例えば、漢方薬を食前、食間、食後に飲むというのは、正直、ほぼ好みのレベルであって、こうあるべき、とはいえないと思っています。食間としていても、結局、忘れてしまうのであれば、食後であっても服用できている方が効果が期待できると思います。患者さんのライフスタイルや、いかに効率的に服用できるかなどについては、是非、窓口で相談に乗っていただき、後日、「〇〇の理由があるようで、こうなっております」と報告いただければ十分ではないかと思っています。一方、「ここは変えないでほしい」というラインもあるでしょう。そこで提案ですが、「ジェネリックへの変更可能 or 変更不可」と同様に、服用方法、残薬調整、一包化などについては、「薬剤師の判断で修正可能、後日報告 or 処方箋どおり、変更不可」といった枠組みができれば、是非、薬剤師にお任せできればいいな、そんなシステムができればいいなと思っています。』

『前回処方引用するところを間違えて前々回の処方を引用した際に、いったん削除した処方が元に戻ってしまってそのまま気づかず処方されたことがあった。患者さん自身の理解力が微妙な方が増えているので、疑問に思ったら積極的に疑義照会をお願いします。』

『(定期通院患者さんの場合) 定期薬の変更(用量や日数や種類など)がある場合は、特記欄にその旨を記載(例: 浮腫悪化で利尿薬増量、湿布残あり、昼の処方をタへ)。また臨時受診の場合は病名を記載(例: 膀胱炎、肺炎、蜂窩織炎)。その他「インフルエンザ、COVID-19」なども、薬局での対応に関わるので記載している。』

参考になれば幸いです。

ではまた次回、乞うご期待!

その他:

●Podcast エピソード 12 は「赤ひげ」!

KPCA Podcast エピソード 12 は、明日香村国民健康保険診療所の武田以知郎先生にお越しいただきました!

KPCA Podcast 012_Dr Ichiro Takeda, Akahige Red Beard Doctor

[vol.1](#) [vol.2](#) [vol.3](#) [vol.4](#) [vol.5](#) [vol.6](#)

学生時代のエピソードから総合診療医を目指すまで、「人」を診て、「家族」を診て、「地域」を診る視点を身につけるまで、「地域」の様々なステークホルダーとの協働などについて、時代の変遷とともに武田先生自身が変化されていくエピソードが、楽しくユーモラスに語られています。武田先生は、2023 年、第 12 回「日本医師会 赤ひげ大賞」を受賞されました。おめでとうございます!

2021 年度より支部活動や会員の状況、プライマリ・ケアの歴史、などを報告するニュースレターの取り組みの一環として Podcast の配信を行っています。

●近畿ブロックのレジェンドたちの

ライフヒストリー&感動秘話

- #1 石丸裕康 先生
- #2 木戸友幸 先生
- #3 中山(畔田)明子 先生
- #4 雨森正記 先生
- #5 鈴木富雄 先生
- #6 松井善典 先生
- #7 竹中裕昭 先生
- #8 三澤美和 先生
- #9 若槻優真先生 稲田有作先生 浦田恵里先生
- #10 吉本清巳先生、および第 35 回近畿地方会の実行委員会のみなさま
- #11 大島民旗先生、川島篤志先生、稲岡雄太先生(第 36 回近畿地方会大会長、実行委員長/副委員長)



をゲストに迎え、順調にポッドキャスト収録が進んでいます。ぜひ一度お聞きください。

----- LEGEND of GP in KPCA -----

日本プライマリ・ケア連合学会、近畿ブロックに所属、近畿で活躍するプライマリ・ケアプロバイダーたちをゲストにお招きし、これまでの変遷、今現場で感じていること、そして、未来に向けて、ざっくばらんなトークを繰り広げることで、近畿ブロックのみならず、日本全国のプライマリ・ケアに従事する方々に「元気」と「勇気」を持ってもらう番組です。

<https://podcasters.spotify.com/pod/show/kpca>

ニュースレター編集委員大募集！！

朝倉 健太郎（大福診療所／桜井市）

近畿ブロック ニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。

3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2024年夏号は44号にあたります。

引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができればと考えております。

ニュースレターの編集にご興味のある方、一緒に面白い記事を作成してみようかなと思った方は、編集部 kentaroasakura@gmail.com 朝倉 までご一報下さい。

読者の声

『皆様の活動内容を拝見し大変勉強させていただいております。勉強した内容を参考に自分が薬剤師として何が出来るかを楽しみながら考えていきたいと思っております。』（若手薬局薬剤師）



（編集部）ありがとうございます！会員の皆様のお役に立てるような記事をこれからも掲載していきます！

【支部からのご連絡】 **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

（学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から）

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之